福岡市総合計画審議会
生活の質部会
会議録

日時 令和6年5月29日(水) 10時00分

場所 アクロス福岡7階 大会議室

出席者（五十音順、敬称略）

朝廣 和夫

上田あい子

勝山 信吾

清水 邦之

西山 久子

藤村真由美

馬奈木俊介

伊豆美沙子

笠井 雅広（代理出席 伊藤）

櫛山 道太

張 彦芳

菽島 理

堀内 徹夫

三浦 暢久

稲員 稔夫

片渕 輝昭

近藤 里美

勢一 智子

福田まもる

松浦 賢長

レイク沙羅

福岡市総合計画審議会 生活の質部会

〔令和6年5月29日（水）〕

開 会

1 開会

○事務局（高橋） それでは、定刻となりましたので、ただいまより福岡市総合計画審議会、生活の質部会を開会いたします。私は事務局の福岡市総務企画局企画調整部長の高橋でございます。本日の進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は報道関係者がいらっしゃいます。報道関係の方にお願いがございます。会議の円滑な進行のため、カメラ等の撮影、取材は委員の皆様の自由な発言、議論の妨げとならないよう十分御配慮をお願いいたします。

なお、本日もYouTubeによるLive配信を行っております。

それではまず、お手元の資料を確認させていただきます。資料1として、素案修正案をお配りしています。また、参考資料7として諮問書を追加しています。全てお手元にございますか。不足がある方、本日、委員個別のファイルをお持ちでない方は、事務局職員までお申し出ください。

本日の資料もお手元のファイルに綴じて事務局で保管することも可能でございます。また、後日郵送でお届けすることも可能ですので、詳しくは会議の最後に御案内いたします。

次に、今回初めて出席される委員を御紹介させていただきます。一言御挨拶いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

宗像市長の伊豆委員でございます。

○伊豆委員 皆さん、おはようございます。よろしくお願いいたします。

○事務局（高橋） ありがとうございます。本日の委員の皆様の出席状況は、お手元の配席表にて代えさせていただきます。

2 部会長、副部会長選任

○事務局（高橋） それでは、これより議事に入ります。

初めに、生活の質部会の部会長と副部会長を選任いただきたいと思います。

福岡市総合計画審議会規則第10条第2項の規定により、部会長及び副部会長は委員の中から互選していただくこととなっております。よろしければ事務局から推薦させていただきますと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○事務局（高橋） それでは、事務局の案でございますが、部会長については、本市のこども・子育て審議会会長などを歴任され、子ども、教育、保健、福祉など幅広い分野に御見識、御経験をお持ちの松浦委員に、また、副部会長については、ユニバーサルデザインやSDGsなどを御専門とされ、本市のユニバーサル都市・福岡推進協議会委員としても御尽力いただいている張委員にそれぞれお願いしてはどうかと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○事務局（高橋） ありがとうございます。それでは、部会長は松浦委員、副部会長は張委員に就任いただきたいと思います。

お二人は正面の席にお移りください。よろしく願いいたします。

〔松浦部会長、張副部会長、正副部会長席へ移動〕

○事務局（高橋） それでは、松浦部会長、張副部会長から御挨拶をお願いいたします。

○松浦部会長 皆さん、おはようございます。松浦賢長と申します。生活の質の部会に関し、実際の審議を預かることになりました。重責を感じております。

私も大学で人々の生活の公衆衛生的な側面を研究しているのですが、今日御参加いただいている委員の先生方の専門性を鑑みると、本当に人々の生活の多種多様な側面から皆さんの御意見を拝聴できることを楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

○張副部会長 皆さん、こんにちは。張と申します。

私は、専門はユニバーサルデザインで、ユニバーサルデザインのコンセプトは誰一人取り残さないということで、全くSDGsのコンセプトと同じで、今、大学のSDGsデザインユニットのユニット長も担当させていただいています。

この会に参加して、福岡市の多様な方々の深いニーズをぜひ今回の計画に反映できたらと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（高橋） ありがとうございます。それでは、ここからは部会長に進行をお願いしたいと思います。

松浦部会長、よろしくお願いいたします。

3 議題

○松浦部会長 では、進行を務めさせていただきます。すみませんが、着座にてさせていただきますと思います。

では、次第を御覧ください。次第の3、議題ですが、第10次福岡市基本計画 分野別目標について、まずは事務局から御説明をお願いいたします。

○事務局（染井） ありがとうございます。総務企画局企画課長の染井でございます。よろしくをお願いいたします。

それでは私から、恐れ入りますが着座にて御説明をさせていただきます。

初めに、今後のスケジュールを改めて御説明させていただきます。恐れ入りますが、お手元のファイルに前回4月25日の総会の会議資料を綴じ込んでおりますので、そちらの資料1、第10次福岡市基本計画策定スケジュール案を御覧ください。

今回、生活の質部会としては本日が第1回となっておりますけれども、資料に記載しておりますとおり、5、6、7月と3か月間部会を予定してございます。この間、生活の質部会、都市の成長部会をそれぞれ3回ずつ開催したいと考えております。内容は今後の御審議によっても変わってくると思いますけれども、現時点の予定としましては、本日がこの後御説明いたします分野別目標、また、来月27日に予定しております第2回の部会で空間構成目標と区のまちづくりの目標、そして、7月に第3回を開催しまして、そこで指標などの御審議をいただきたいと考えてございます。当然ながら毎回、その一つ前の会議でいただいた御意見を素案に反映いたしまして、その点についても御意見を頂戴できればと考えております。

その後は8月に総会で原案という形で決定いただきまして、これをパブリックコメントに諮りました後、10月に再度それぞれの部会を開催いたしまして、11月に総会で答申案を決定していただくという流れを考えております。

当然、御審議の進捗によってスケジュールが変わってくる可能性はございますけれども、現時点の想定ということで御理解いただければと思います。

それでは、お手元でございます本日の資料1、第10次福岡市基本計画素案修正案の1ページをお願いいたします。本日の議題は分野別目標でございますが、初めに資料全体について1点御説明をいたします。

1ページ、御覧いただいておりますとおり、朱書き、アンダーラインの記載があるかと思っておりますけれども、これは前回4月25日の総会で皆様からいただいた御意見を反映させた部分につきましてこのようにお示しをしております。また、ここにお示ししている以外のものについても、基本計画の下の実施計画、あるいは各分野別計画等々でも今後しっかり対応してまいりたいと考えてございます。本日は時間が限られておりますので、反映した

点の一つ一つの御説明は割愛させていただきますけれども、御不明な点などがありましたら後ほどお尋ねいただければと思います。

それでは、6ページを御覧ください。

前回の総会でも御説明いたしましたけれども、6ページの表に記載しておりますとおり、この基本計画では分野別目標としまして、目標1から目標8まで八つの目標を掲げたいと考えてございます。このうち目標1から4は主に生活の質に関する分野ですので、この生活の質部会で、また、目標5から8は主に都市の成長に関する分野でございますので都市の成長部会で、それぞれ御審議をいただきたいと考えております。

11ページをお願いいたします。ここからが本題でございます、まず分野別目標の構成でございます。

目標1から目標8まで、それぞれにつきまして記載の(1)から(4)で構成をしております。(1)めざす姿につきましては、本計画の目標年次であります2034年度に実現していることを目指す都市の状態を表すものでございます。(2)市民意識につきましては、(1)のめざす姿をできるだけ市民の皆様にも分かりやすい言葉で表しまして、まちづくりに関する市民の意識をアンケートで把握していくというものでございます。(3)現状と課題につきましては、めざす姿の実現に当たりまして、社会経済情勢や市民意識などを踏まえ、現状と課題をお示しするものでございます。最後に(4)施策につきましては、現状と課題を踏まえまして、めざす姿を実現するための取組の方向性を表すものでございます。

12ページを御覧ください。

目標1「一人ひとりが心豊かに暮らし、自分らしく輝いている」でございます。この分野は、多様性やユニバーサルデザイン、また、心豊かな暮らしや福祉などの分野でございます。

(1)めざす姿としまして、一つ目は、年齢や性の違い、国籍、障がいの有無などにかかわらず、すべての人の人権が尊重され、市民一人ひとりが互いに多様性を認め合うことで、誰もが自分らしく輝いています。

二つ目は、市民一人ひとりがそれぞれの知識や経験を生かし、社会の担い手、支え手として意欲的に社会参加するとともに、文化芸術やスポーツなどを身近に感じ、気軽に楽しみながら、健やかで心豊かに充実した生活を送っています。

三つ目は、支援を必要とする市民が適切な福祉・介護等のサービスを受け、誰もが安心して快適に暮らしていますとしております。

(2)の市民意識につきましては、先ほど申しましたとおり、(1)の趣旨をできるだけ分かりやすい表現でまとめたものでございますけれども、こちらは7月の部会で指標として改めて御説明しまして、御意見を頂戴したいと考えております。

(3)現状と課題でございます。まず一つ目は、福岡市には国内外から多様な人々が集まり、

ともに生活しています。年齢や性の違い、国籍、障がいの有無などにかかわらず、誰もが自由に快適に生活できるよう、互いに思いやりを持ち、ハード・ソフトの両面からすべての人にやさしいまちを実現する必要があります。

二つ目は、少子高齢化が進展し、社会の担い手、支え手が不足する一方、健康で社会参加に意欲的な高齢者は増えています。健康寿命の延伸に加え、誰もが文化芸術やスポーツなどを楽しみ、生涯にわたって生きがいを感じることができるような社会づくりが求められています。

三つ目は、単身高齢者や要介護認定者、障がいのある方など、支援を必要とする市民が増加していく中で、本人やサポートする人の多様なニーズに応じた福祉・介護等のサービスの充実が求められています、としております。

こうした現状と課題を踏まえまして、13ページの(4)施策につきましては、

1-1 多様な市民が輝くユニバーサル都市・福岡の推進、

1-2 一人ひとりが健やかで心豊かに暮らせる社会づくり、

1-3 すべての人が安心して暮らせる福祉の充実 の三つを掲げておりまして、詳細は記載のとおりでございます。

14ページをお願いいたします。目標2「すべての子ども・若者が夢を描きながら健やかに成長している」でございます。ここは、出産、子育て、若者、人材育成などの分野でございます。

まず(1)のめざす姿でございます。一つ目は、子どもを望む人が、働き方やライフスタイルに関わらず、安心して出産、子育てしています。

二つ目は、すべての子どもや若者が、権利の主体として尊重され、生まれ育った環境に左右されず、夢や希望を叶えられるよう、社会全体で見守られながら、心身ともに健やかに育っています。

三つ目は、子どもや若者が、自ら学び、人や社会とつながりながら、様々な体験を通じ、生き抜く力を得るとともに、将来を切り拓くことができる、次代を担う人材として成長しています、としております。

(2)の市民意識につきましては、記載のとおりでございます。

(3)現状と課題でございます。まず一つ目は、価値観の多様化や子育てに対する不安感など、様々な要因により、全国的に少子化が進展する中で、安心して出産や子育てができる環境が一層求められています。

二つ目は、地域や世代間のつながりの希薄化や、SNSの普及をはじめとする情報ツールの多様化など、社会環境が変化する中で、児童虐待や貧困、不登校やいじめなど、子どもたちが抱える困難は、多様化・複雑化しています。

三つ目は、テクノロジーの進歩やグローバル化の進展など、社会経済情勢が大きく変化

する中で、子どもや若者が様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることが求められています、としております。

こうした現状と課題を踏まえまして、15ページの(4)施策につきましては、

- 2-1 子どもを望む人が安心して産み育てられる環境づくり、
- 2-2 すべての子どもや若者が安心して暮らし、成長できる社会づくり、
- 2-3 自ら学び続け、他者を尊重し、協働できる子どもの育成、
- 2-4 将来に夢や希望を抱き、意欲と志を持ってチャレンジする人材の育成 を掲げておりまして、詳細は記載のとおりでございます。

16ページをお願いいたします。

目標3「地域の人々がつながり、支え合い、安全・安心に暮らしている」でございます。ここは、身近な地域のまちづくりや生活インフラ、防災、防犯などの分野でございます。

まず(1)めざす姿でございます。一つ目は、市民が身近な地域の課題やまちづくりに主体的に関わり、地域コミュニティ活動の場となる公共施設をはじめ生活環境が整うことで、人と人がつながり、支え合いながら、元気に安心して暮らしています。

二つ目は、道路、上下水道、河川、公園などの身近な生活基盤が良好に整備されるとともに、地域における自主防災組織などを中心とした共助の仕組みがつくられ、災害への備えが確保されています。

三つ目は、地域の防犯体制や消防・救急医療体制、感染症への危機管理体制が整うとともに、モラルやマナーが大切にされることで、市民が安全で安心して暮らしていますとしております。

(2)市民意識につきましては、記載のとおりでございます。

(3)現状と課題でございます。まず一つ目は、少子高齢化の進展や地域における孤独・孤立化、災害の激甚化・頻発化などにより、様々な分野で「共助」の重要性が高まる一方で、支え合いの基盤となる地域コミュニティへの関心が低下し、自治協議会や自治会・町内会では担い手不足や参加者の減少などが大きな課題となっております。

二つ目は、区役所や市民センターなど、市民に身近な公共施設の老朽化や、市民ニーズの多様化に対応するため、公共施設の計画的な改修や更新、サービスの拡充や施設機能の充実が必要となっております。また、行政サービスのみならず、生活交通の確保や買物支援など、高齢化社会に対応した地域のまちづくりを進めていく必要があります。

三つ目は、道路、上下水道、河川、公園などの身近な生活基盤を安定的に維持していくとともに、近年、激甚化・頻発化している自然災害への対策を強化する必要があります。

四つ目は、刑法犯認知件数や交通事故発生件数は減少傾向にありますが、犯罪や事故の撲滅に向けてさらなる対策が求められており、また、アジアのゲートウェイ都市である福岡市の特性を踏まえ、新興感染症等への備えも重要です、としております。

こうした現状と課題を踏まえまして、17ページの(4)施策でございしますが、

- 3-1 つながりと支え合いの基盤となる地域コミュニティの活性化、
- 3-2 生活の利便性が確保された地域のまちづくり、
- 3-3 安全で快適な生活基盤の整備と災害に強いまちづくり、
- 3-4 日常生活における安全・安心の確保と地域福祉の推進 を掲げておりまして、詳細は記載のとおりでございします。

18ページを御覧ください。

目標4「人と自然が共生し、身近に潤いと安らぎが感じられる」でございします。この分野は、海や山などの自然や身近な花、緑、また、脱炭素や資源循環などの分野でございします。

まず、(1)めざす姿でございします。一つ目は、博多湾や背振山をはじめとした豊かな自然の恵みを享受し、都市と自然が調和したコンパクトで暮らしやすい都市環境が国内外から高く評価されています。

二つ目は、美しい街並みや地域の特性を生かした魅力的な景観が形成されるとともに、街中には心地よい花や緑が溢れ、市民が身近に潤いと安らぎを感じています。

三つ目は、市民や企業の環境意識が高く、脱炭素社会の実現、循環経済の確立、生物多様性の保全・回復に一体的に取り組む持続可能な社会づくりが進んでいます、としております。

(2)の市民意識は、記載のとおりでございします。

(3)現状と課題でございします。まず一つ目は、福岡市は、海や山に囲まれた地理的条件を生かし、コンパクトな都市づくりを進めてきましたが、豊かな自然や食を支える市街化調整区域や離島では、人口減少や少子高齢化が進み、農林水産業の担い手不足や地域コミュニティの維持などの課題を抱えています。

二つ目は、都市機能が充実する一方で、人々の価値観は量から質へと変化し、心の豊かさが重視される中、各地域の特性を生かした福岡らしい質の高い都市景観づくりや、公園・街路樹・花壇など、身近な自然への市民ニーズが高まっています。

三つ目は、地球規模での気候変動による影響が深刻化し、世界中で環境保全、温室効果ガス排出削減への意識が高まる中、福岡市においても、環境負荷の少ない持続可能な社会の実現に向けた取組みをより一層加速させる必要があります、としております。

こうした現状と課題を踏まえまして、19ページの(4)施策につきましては、

- 4-1 都市と自然が調和したコンパクトで個性豊かなまちづくり、
- 4-2 花や緑などによる潤いや安らぎを感じるまちづくり、
- 4-3 持続可能で未来につながる脱炭素社会の実現、
- 4-4 循環経済の確立に向けた資源循環等の推進 を掲げておりまして、詳細は記載の

とおりがございます。

説明は以上でございます。御審議のほどよろしく願いいたします。

○松浦部会長 事務局の御説明、ありがとうございました。

まず、本日の審議でございますが、この場で内容が固まる、あるいは固めるものではございません。委員の皆様には、不足している視点や表現など率直な御意見を賜りたいと思っております。

また、本日の部会では、目標1から目標4、今、御説明いただいたところですが、12ページから19ページについて、御意見、御審議いただければと思います。その後続きます目標5から8、こちらは先週、都市の成長部会で既に審議を一度しているということでございますが、必要であれば当部会で皆さんから御意見をいただいてももちろんかまいません。時間に限りがありますので、御意見は簡潔にお願いしたいと思います。

私、事務局から進行のシナリオ、定型的なものをいただいておりますが、皆さんとこういう対面、そしてオンラインを含めた非常に貴重な機会をいただきまして、できましたら今日御参加いただいている全ての委員の皆様には何らかの御発言をいただければと思っております。それを踏まえて、会議の進行については公正性と効率性、二つを進行のほうで少し意識させていただければと思います。公正な会議進行、そして効率的な会議進行です。

シナリオにないことを話していき申し訳ないのですが、今回二十数名の委員の御参加をいただいておりますので、残り時間を割ると1人当たり4分になるのではないかと考えております。ですので、皆さん、たくさん御発言されるポイントがあるかと思いますが、まずは最初の一巡は二つあるいは三つに絞って御意見を賜ればと思います。その後また二巡目というところで、時間次第で皆様方に御意見賜ればと考えています。大変失礼な所作になると思いますが、3分以上、4分近くなりましたら私のほうで「先生そろそろ」ということを入れさせていただくことがあるかと思っておりますので、冒頭から謝っておきたいと思っております。

それでは、まずは目標1から4の範囲で御意見等を賜ることができればと思いますが、いかがでしょうか。

どうぞ、委員。

○委員 最初に部会長にお願いですけど、今言われた公平、公正な時間の関係で、私、資料を用意してきているんですよ。この資料の配付を許していただいてもよろしいでしょうか。2枚ほどの資料です。

○松浦部会長 すみません、その資料は何のために用意されて。

○委員 私の今からの発言を裏づける資料です。

○松浦部会長 その資料がないと……。

○委員 資料があったほうが分かりやすいし、説明は端的に済むと。

○松浦部会長 なるほど。恐らく効率性の観点からはその資料があったほうがいいと思慮できますが、公正性の観点から言うと、国の審議会でそういう資料を用いたプレゼンテーションというのは、事前に杵とどなたが発表していただくと決められて進行されるということがありますので、それからすると、今日の日以前に全ての委員の皆さんに資料2枚は配付できますということで皆さん方に同意していただければ全然ウェルカムだと思うんですけど、ちょっと今日は……。

○委員 事務局と昨日まで打合せをして、本日、部会長の許可を得たらということでの進行を諮っていたので。

○松浦部会長 そうなんですね。分かりました。

先ほど申し上げた公正性からいきますと、ほかの皆様、私も含めて、それだったら私も資料を用意してきたよという話があるかもしれませんので、今日は配付資料なしで御説明いただければと思います。

○委員 分かりました。

○松浦部会長 申し訳ありません。お願いします。

○委員 そしたら、まず1点だけ質問させていただきます。その上で意見表明させていただきます。

質問の1点というのは、基本計画と、先ほど張副部会長が申し上げられたSDGsとの関係です。今の説明の中では一言もSDGsという言葉は使われませんでした。市長も議会では、総合計画の着実な推進によってSDGsの達成に向けて取り組んでいるところであると答弁されているようですけれども、総合計画、基本計画ではSDGsを達成することについて目指していると思うのですが、それで間違いないのか、答弁を求めます。

○松浦部会長 ありがとうございます。

こちらはSDGsという文字が入っていないという、まずその事実から確認させていただきますけど、それは事務局の確認をお願いします。例えば施策大綱みたいなものがある場合、そこには入っていると入っていないとか、その辺り、事実だけをお願いします。

○事務局（染井） 承知しました。

SDGsに関しましては、各目標分野の目標の見出しの上にSDGsの関連するゴールアイコンをお示しする形で、それぞれの取組みがSDGsのゴールの実現につながることを表現させていただいております。

○松浦部会長 ありがとうございます。

○委員 では、意見表明をさせていただきます。

○松浦部会長 どうぞ。

○委員 今、言われたように冒頭書いているだけで、あとは何もSDGsについて、その精神もその中身も、目標の1から8まで一切ないんですね。

それで、まず目標1について意見を述べますけれども、SDGsのゴールが右肩に8個貼りつけてあります。SDGsのターゲットについては、現状がどれくらいで、具体的な目標にどれだけ貢献するかが何もこれでは分かりません。これではSDGsウォッシュと言われても仕方ありません。したがって、素案修正案は、達成される目標が非常に曖昧な上に、SDGsのターゲット、数値目標との関係が全くないものであり、何を目指しているのか不明瞭過ぎるこの目標値は抜本的に見直されるべきです。

そこで提案をします。まず、SDGsそのものの目標である貧困の削減と所得の向上を目標1の中心に据えるべきです。SDGsのターゲットにある1-2、これは明確に貧困の度合いを表示しようとしていますし、10-1でも同様のことが見られるんです。したがって、福岡市として市民の相対的貧困率を測り、その半減を目指すこと、市民1人当たりの家計の可処分所得を所得下位40%について引き上げる目標を設定する、これがSDGsの理念にかなった本市が持つべき生活指標だと思いますので、そういうことを意見表明しておきたいと思います。

次に、政令市の住宅・土地統計調査というものを政令でつくっているんですけども、それによると、本市の収入階級別構成比から市民生活の実態を見ますと、福岡市では住生活基本計画で300万円未満を低所得世帯と規定していますので、住宅・土地統計調査では市民の4割が低所得世帯となっています。そして、200万円未満のワーキングプアと言われる、

仮にそれを貧困層だとすると、住宅・土地統計調査では市民の4分の1が貧困層となっており、横浜市の倍を超えているんです。この状況は、SDGsのターゲットの10-1、所得の下位40%が福岡市では丸々低所得ということになっており、市も福岡市住生活基本計画第2章⑤住宅困窮者の状況の冒頭で懸念材料としています。前回の審議会でも私が述べましたように、第9次の基本計画の期間中、1人当たりの市民所得は低下しています。そのことは計画策定の趣旨でも、③、④のところで物価高騰と単独世帯の増加などを心配している記述となっています。

最新の住宅・土地統計調査では、福岡市の単身世帯や高齢世帯では6割が低所得になっています。福岡市で最も深刻な住宅問題、都市問題だと言えます。そこに目を背けた生活の質の向上はあり得ないと思いますし、貧困削減を第一のターゲットにしているSDGsに何もこれはかなっていないと思いますので、この位置づけを明確にすることを求めます。以上です。

○松浦部会長 ありがとうございます。私はSDGsというのはあまり明るくないんですが、恐らく各法体系の上に存在するものではないというふうな認識をしております。SDGsがあるから貧困対策が大切だというわけでは恐らくなくて、別にSDGsがあろうがなかろうが貧困対策は大切だと、素人ですけれども考えております。

今の委員の御意見等、ほかのSDGsを研究されているような先生方がもしいらっしゃったらコメントいただければと思いますが、いかがでしょうか。

オンラインの委員ですかね。お願いします。

○委員 簡易に述べさせていただきます。

私は国連のIPCCとかSDGsの中間報告の諮問委員をしておりますので述べさせていただきますと、市の資料にはSDGsのロゴを含めて入れていただくことは既にされているということで、今の委員の質問は、もっと明確にそこを踏み込んでやろうという発言だと思います。今、部会長がおっしゃられたのは、法体系上そこまで必須ではないという判断というふうに理解しました。

国連のほうに関わっている私からしますと、大事なのは、今ちょうどSDGsの次の指標を何にしていこうかというのが大きい議論、Beyond SDGsと言われているものですので、そこに今回指標で入れられているような生活の質——Well-beingですね、こういうものも入り込むので、そういう面を踏まえながら次のことに向かって示していくのは非常に大事です。各指標が、付録でもいいですけどもSDGsの何々にもリンクしてますということも、それはそれで大事ですが、大事なのは、漏れている全て一律の指標ではなく、それ以外の指標も踏まえてやるということは示すべきかなと思います。

以上です。ありがとうございます。

○松浦部会長 ありがとうございます。すみません、MDGs、SDGsと来て、次になる切替えの年というのはいつになりますか。

○委員 2030年ですね。2015年から2030年がSDGsです。その前の15年間はMDGsです。大体数年前から議論されていて、2030年に出てきますので、実質、今、次の指標は何にしようかという議論は始まっています。

具体例を言いますと、Well-beingや自然資本といった、より包括的な指標として個々の方まで入り込んだ詳細な指標というのが今のSDGsには抜けているので、それは議論されています。2029年にほぼ本決まりになって、2030年から次の15年間というふうになります。もちろん国連ですので、皆さん合意できずに次の目標はありませんということも3分の1の可能性であるかもしれません。

以上です。ありがとうございます。

○松浦部会長 ありがとうございます。

では、SDGsの次の何とかGsみたいなものが国連のほうで議論されているということも踏まえて、計画期間の中だと思しますので、また福岡市ならではの先取的などころでやっていただければいいのではないかなと思います。

では、そのほかの委員の方から御発言をお願いいたします。

お願いします。

○委員 では、一つ意見を申し上げたいと思います。

事務局から、出産、子育て、若者、人材育成ということで、ページは14ページですけれども、それにしっかり取り組んでいくんだということで御説明がありましたが、めざす姿など様々見せていただく中で、子どもや若者というワードが結構、六つ、七つ入っております。福岡市は、こども未来局がありますけれども、そこだけで、他都市では若者、育成とかそういう局があったりするのですが、どうしても子どもと若者を一緒にしているところを見ても感じるところでございます。

子どもは子どもの現状と課題があると思いますし、特に福岡市は若者施策がなかなか進んでないという現状もございますので、子どもと若者を一緒にする部分もあるかもしれませんが、分けて問題意識を持って取り組んでいくことが、この先10年特に必要ではないかなと思います。その辺りを御検討いただければと思います。

以上でございます。

○松浦部会長 ありがとうございます。

今の御意見に関して何か補足は。大丈夫ですか。

では、委員、お願いします。

○委員 ありがとうございます。私からも何点かコンパクトに申し上げたいと思います。

まず1点目は、全体の進め方や検討に関わる部分になりますけれども、関連する部門計画との関係を意識して議論をした方がよろしいのではないかなと考えています。計画体系の整合性を図るという視点です。総合計画は屋根になる位置づけになりますので、可能であれば、関連する部門計画を所管する審議会の意見などもパブコメの前に聴取をするというのも一つのアイデアだと思います。先日、環境審議会が行われましたが、環境基本計画がまさに改定作業をやっておりまして、協調して相乗効果を生むような内容にするのがよろしいかなと思いました。

また、総合計画の中の部会間の協調も大事というのは前回の総会でもありましたけれども、先ほど委員が御指摘になった、SDGsの次の候補の一つである自然資本という考え方は、両部会の架橋的な概念になる可能性があるかなと思っています。協調というところで計画体系の御検討をいただければと思います。

二つ目としましては、全体の項目の市民意識に関わる箇所ですけれども、それぞれ二つ挙げられています。先ほどの御説明では、今後、成果指標というか、KPIにつながるということでしたけれども、全て市民の思う人の割合で、これはアンケート調査だと思います。市民の思いは大事だと思いますが、アンケート調査は極めてそのときの社会状況に左右される部分がありますので、ほかの指標と組み合わせて測れるような形で御検討いただくのがよろしいのかなと思いました。

3点目ですけれども、18ページのところになります。私は環境審議会の会長をあくまで務めていますので、環境分野については少し申し上げたいと思ひまして、(1)めざす姿の三つ目です。ここで生物多様性を入れています。「生物多様性の保全・回復」とありますけれども、ぜひここに「創出」を加えていただきたいと思ひます。3ページでは「創造」というのを修文で入れています。やはり生物多様性の分野、自然資本もそうですけれども、ネイチャーポジティブという考え方で、既に失われているものを新たに、単に回復するだけでなくそれをもっといい状態に持っていくという、創出というクリエイティブな意味合いも今入ってきていますので、これをぜひ入れていただきたいと思ひます。

あわせて、生物多様性はカーボンニュートラルの次に重要な分野と言われているので、ぜひ(4)の施策の部分についても、生物多様性のワードをどこかに入れていただけるとありがたいと思ひます。福岡市でも地域戦略の策定を予定していると聞いていますので、その

辺りとの整合を検討いただければと思います。

以上です。

○松浦部会長 ありがとうございます。都市だからこそその視点として、視野に入れておくべきことというところも含めて御意見いただきました。ありがとうございます。

そのほかの委員の方から、どんな観点でも構いませんので。

では、委員、お願いします。

○委員 今日はそんな細かいところまで話すものではないと思いますので簡潔に。

以前も話したんですが、大きな観点で今、世の中、福岡市も含めていろいろな課題がある中で、その課題に対応していく、課題や問題を解決するための施策というものを一生懸命やられてあるのは分かります。ただ、例えばいじめ、不登校、虐待、そうしたもののいろいろな施策をやっている、支援をしている中で、認知のやり方とかも変わってきているので増加しているという部分もありますが、確実に増加をしてきていると思います。

ではなぜそういうことが起こっているのかという根本をきちんと予算をつけて解決をしていく。その根本を見つけて、そこが発生しないように、例えばの話ですが、いじめや虐待、不登校にならない施策というものも展開していかないといけないと思うんですね。その問題や課題に対することばかりではなく、それが起こらないためのことをしっかりと研究して、起こらないための施策もやっていかないといけないと思うので、そういうところも何かこの計画の中に。特にこれから本当に社会情勢が目まぐるしく変わる中で見落とすことがないように、そういうところをこの計画の中にしっかり明記をしてもらいたいと思います。

また、一つ例を挙げると少子化対策も、前回も言いましたけれども、子育て支援と少子化対策は別で考えるべきだと思います。それが今、世の中で一緒に議論されてしまっているというのがどうなのかなと思います。子どもを産んだ、授かった後の支援はされていますが、授かる前、そこがまた大事な結婚というものに進んでいく、結婚するのがすべてだとか出産することが正しいとか言っているわけではなく、まず結婚ということもしっかりここに明記して考えていかなければいけないと思います。

あと、大きな観点で、社会課題の解決。先ほどSDGsというようなことも出てきましたけれども、それも大事なことだと思いますが、福岡市の、地方の自治体の計画であるので、その中で、これも例を出しますと、令和4年3月に福岡市再犯防止推進計画なども策定をしています。何らかの理由で犯罪を犯して、刑務所なり少年院なりいろいろなところに入所されて、その方たちが出所された後にまた再犯をして戻ってしまう。これって、少し言い方がおかしいかもしれないですけども、刑務所などにはものすごく予算がかかっ

ている。そのいっぱいかかっているお金を使った方たちが出てきた、そしてまた社会になじめずに再犯を犯して刑務所に戻り、またそこで税金を使う。そうではなくて、やっぱり税金を使って更生をされたのなら、社会全体で、その人たちが社会に出たときにきちんとそこで学べて納税者になってもらう。憲法に納税の義務というものがありますので。そうしたところも何か明記をしていただきたいと思います。

よろしく願いいたします。

○松浦部会長 ありがとうございます。先ほど御発言いただいた他の委員のところと少しかさなるかなと思うところがございました。今、いただいた御意見で、少子化の観点ですが、我が国では子どもは婚姻関係から生まれています。それは世界的に見ると韓国と日本は九十何%みたいな話です。となると、婚姻に至るというのは、子どもではなくて若者世代、若者だけではないですけども、ということからすると、そこへの支援はどうあるべきかというのは、今、大分国でも盛り上がってきていると思います。先ほど他の委員が言われたように、子ども・若者と一緒になっているところを、子どもと若者と別々に考えると、若者はやはりそういうライフサイクル的なところも見えてくるかなと思いましたが、また整理がその辺りでできる可能性もあると思いました。貴重な御意見ありがとうございます。

そのほかございますでしょうか。

どうぞ、委員。

○委員 よろしく願いします。

目標の2と3にちょっと関係するかと思いますが、まず、2の子ども・若者のところの「めぎす姿」で、「子どもや若者が、自ら学び、人や社会とつながりながら」とありまして、現状と課題の2番のところに「SNSの普及をはじめとする情報ツールの多様化など、社会環境が変化する中で」というふうに触れられています。これに関して、情報リテラシーの教育だったり、そのような知識を与える場を、環境づくり、安心・安全というところにつながると思うんですが、どうやって安心・安全な環境をつくるかというところで、次の16、17ページに「地域コミュニティ」という言葉も出てきているんですけども、最近では地域コミュニティだけではなく、情報コミュニティというSNSを通じた活動ということも触れたほうがいいのかと思いました。

その際には、若者・子どもだけに限らないのですけれども、やはりSNSだったりネット環境、情報リテラシー教育というところについても学ぶ場などをつくっていくことが、結果、安心・安全な暮らしの一助になるのではないかと感じました。これは災害のところにもつながると思うんですが、すべてがアナログなところだけではなかなか賄えない今の

環境を前提として、そのようなことを盛り込んでいただいていた方がいいかと思いました。

以上です。

○松浦部会長 ありがとうございます。14ページから17ページにかけて、特に14ページのSNSというキーワードから御意見いただきました。ありがとうございます。

そのほか、どんな観点からでも。

委員、お願いします。

○委員 よろしく申し上げます。私からはLGBTの視点からということで、今日のお話の中でちょっとできそうだなと思ったのは、目標3の自主防災組織ですとか防犯体制というところのお話で、ずっと気になっていることがあるのでお伝えできたらと思っています。

今までも、東日本大震災ですとか熊本地震のときでも、LGBTQの当事者が災害支援を受けられないという状況のデータが多々上がってきております。その際に当事者が倒壊寸前のお家で過ごさなければならなくて、それは、避難所に入れなかった、入れさせてもらえなかったですとか、男性2人、女性2人という部分で家族として認めてもらえなかったですとか、当事者がもらえるはずの、支給されるはずのものがもらえなかったですとか、そういうものが多数上がってきているんですね。ぜひそういうところもしっかりとマニュアルに入れていただければうれしいなと思います。

ぜひしっかりとこの中にマニュアル化というのをに入れていただきたいなと思うんです。どのマイノリティーにどこまでの支援があるのかということをも明記することによって、しっかりと支援が受けれるようになると思います。でないと、有事の際というのは、いわゆる平時のときにできないものは有事には絶対できないと私は思っていますので、平時からしっかりとマニュアルづくりですとか、日々のダイバーシティに対する視点を培っていくことをやっていかないと、突然有事になったときには、今まであるバイアスによって物事が進んでしまうということが起こり得ると思っていますので、しっかりそこはマニュアルと研修をやっていただきたいなと思ったので、ちょっと今日ここで発言させていただきました。

○松浦部会長 ありがとうございます。

委員、すみません、先進的なマニュアルづくりなどをされている自治体は全国でどこかございますか。

○委員 自治体でというよりは、LGBTQのことに関して言うと、東北で、LGBTQと災害という形でのマニュアルを出している団体さんがいますので、それを参考にしてい

る自治体さんはあるかとは思いますが。一応福岡市さんのほうにも私のほうから何度かマニュアルを提出させていただいて参考にさせていただいている現状はあります。

○松浦部会長 ありがとうございます。貴重な御意見を賜りました。

では、そのほか。

委員、お願いします。

○委員 すみません、初めて伺いましたので、まず、この全体的な総合計画審議会の内容の多さにちょっと驚いております。

まず1点目のお尋ねですが、総論のこの四つについては、生活の質部会、都市の成長部会の共通項目として、この総論が上げられているのでしょうか。それとも、これは両方に共通することだと受け止めてよろしいのでしょうか。

○松浦部会長 2ページ、3ページに関する御質問ですか。

○委員 いや、9ページまでですよ。

○松浦部会長 総論と二つの部会の関連ということのお尋ねですかね。

○委員 はい。

○松浦部会長 こちらは事務局に端的にお答えいただければと思います。

○事務局（染井） ありがとうございます。おっしゃいましたとおり、総論に関しては、生活の質にも都市の成長にも両方に関わってくる分野というところで、4月の総会で御審議をいただいたというところでございます。

以上でございます。

○委員 その中で、生活の質部会としては、ここの上に明記してある人権、福祉、子ども、教育、地域コミュニティ、防災、環境、自然について、この会議の場で検討するという見方でよろしいのでしょうか。それとも、総論についてもこの場でお話ししてもよろしいということでしょうか。

○松浦部会長 総論は総会のほうで議論するものだと私は認識しています。今回、専門性の

高い委員の方に集まっていたいただいていることも踏まえますと、今回は12ページ以降の生活の質の4視点を主に御意見を賜ればと思っております。

○委員 分かりました。それを聞いた上で、私は(3)の都市経営の基本戦略、つまり2ページと、4ページに「福岡都市圏全体として発展し、広域的な役割を担う」という3の項目があり、その下に福岡都市圏の地図も描かれておりまして、福岡市を中心とした都市圏、薄いベージュ色で描かれている都市圏を代表して参加させていただいていると認識しております。

これは総論ということで、その中で九州における役割、日本における役割、アジアにおける役割ということが明記されていますが、この地図に書かれている福岡都市圏というのは、福岡県の中で中ブロックと呼んでおり、福岡市の繁栄のおかげで、この地域ではどこの市町も人口が減っておらず、比較的九州全域の中でも生産年齢人口が減りにくいということで、社人研とかいろいろなデータがありますので一概には言えませんが、比較的人口が減らない地域だと明記されております。その中で、最近急激に都市開発が行われたところもあるので、当然福岡市が一番だと私は思っていたのですが、実は九州で一番なのは、福津市というところが今、明記されております。

すみません、前置きが長くなりましたけれども、アジアにおける役割を福岡市としてもっと掲げていただきたいと。福岡市とか日本ではなくて、もっと広い視点で、東アジアのハブとして福岡市さんには頑張っていただきたいと、都市圏の地域に期待感を持っているということです。

多分、空港と港とJRが30分以内である都市というのは福岡市だけではないかと思っておりますし、上海、ソウル、東京が空路で1時間半以内で行けるというのも多分福岡市だけだと思いますので、これは生活の質部会の議論の各論とはかけ離れたことになりましたが、10年とか20年の長期的なビジョンとして、総論というよりも長期的なビジョンとして、福岡市さんには東アジアのハブとしての都市機能を期待しているということです。

以上です。

○松浦部会長 ありがとうございます。もう一つの都市の成長部会のほうで目標5から8の、今の委員の御意見は議論されていることかと思いますが、両部会に通底するスタンスとして総論のところもございますので、生活の質部会も無縁ではないという認識をさせていただきたいと思っております。ありがとうございます。

では、挙手いただいているオンラインの委員、お願いします。

○委員 二つ三つコンパクトに指摘させていただきます。

目標3、17ページの地域コミュニティの3-1の文章の中で「多様な主体」とありますが、地域コミュニティだけではなくて、今、個の時代というふうに言われて、NPOなどの共助の視点が必要と思います。特に田舎のほうでは子どもが他出していることもありますので、地域コミュニティだけではない主体の関わりが重要と思います。

また、先ほど防災の話がありましたけれども、ぜひ他地域支援の観点をここにに入れていただきたいと思います。福岡は九州でも人口集中地域で、平時から防災に関する多様な人材育成、他地域との関係づくり、そして災害時の支援を計画的に実施していく役割があるかと思っています。

次の目標4の自然関連で、先ほど自然資本と生物多様性の話がありました。今後、生態系サービスの最大化を行うためには、農林水産業の生産機能を落としてでも、文化サービス機能の向上や自然の基盤サービスの向上が必要ではないかと思っています。4-1の文章で、「農林水産業が有する自然環境の保全や景観形成などの多面的機能を活用するとともに」と、開発サイドの中に自然環境の保全が入っていますけれども、やはり自然環境の保全、景観形成の部分に関しては、農林水産業ももちろんありますし、そういう機能を持っていますけれども、それとは別建てで、もう少し自然環境の質をどう高めるのかという視点で書く必要があるかと思っています。

この自然環境の質と文化的サービスだとか人材育成の観点に関しては、もっと横の連携を取るべきではないかと思っています。例えば、目標1の一人ひとりの話の13ページの1-2に「文化芸術やスポーツなど」とあり、12ページの現状と課題の中にも「文化芸術やスポーツなど」とありますが、実はこの「など」の中に、自然環境における子どもたちだとか高齢者の福祉も含めて、より健康になっていただくといった自然環境へのアクセスがサービスとなる、もしくは一人ひとりの暮らしの質の環境づくり、そういうことにつながる視点が多分ここに入っていると思います。

また、目標2の子どもと若者のところも、15ページの施策2-4「将来に夢や希望を抱き」のところに「遊びや学びの場、様々な体験機会」とあり、この「様々な」の中にも自然体験活動等、海とか山とか農地の体験というものが多分含まれているのだと思います。ここら辺は担当部署がなかなか横の連携が取れていないので、こういった言葉に集約されていると思いますが、やはりそこを具体化しないと、自然の質と生活の質をともに上げていく具体的な施策は実施できないのではないかと思います。

意見です。以上です。

○松浦部会長 ありがとうございます。「など」というところに、こういう視点を加えるべきという貴重な御意見をいただきました。また、他の委員の御意見とも絡めていただき感謝いたします。

他の委員のところでもありましたが、基本計画を受けた各種の、先ほどの環境審議会とかいろいろな縦割りのところを、少しでも施策面で横串を刺せるような仕組みで、この「など」というところをできるだけ漏れのないようにしていく展開をしていただければと思います。ありがとうございます。

そのほかございますでしょうか。オンライン参加の方も含めて挙手を。

では、委員、お願いします。

- 委員 自分の担当専門分野外かもしれないですけども、目標1の「自分らしく輝いている」ですが、大学におりますと最近留学生が非常に多くて、彼らの中には、日本で将来働きたい、最終的には帰化したいと、頑張っている日本語を勉強しているケースもあります。文化、バックグラウンドが違うので、「多様性を認め合うことで誰もが自分らしく輝いている」、これは理想的には素晴らしいのですが、実際はそういった人たちをうまく地域になじませるのは相当な努力が必要だと、実態として感じています。

目標3にも地域コミュニティがありますが、こちら辺の文面を見ると、あくまで日本の文化になじんだ人たちのコミュニティが想定されたような作文になっていますけれども、実際はここに多分、好むと好まざるにかかわらず、今本当に人手不足ですので、これまでの文化的な価値感がかなり違う人たちがいろいろなところに入っていきかと思えます。そこをうまく市としてなじませていくところも必要になってくるかと思うので、どこかにそういう要素が入ったらいいのではないかと思いました。

目標1のままですと、ちょっと理念が強過ぎて、現実の人々の生活の中でどうやっていくのが分かりづらいと思ったのが1点です。

2点目は、目標1にも関連するのですが、自分らしく輝くという理念と実態のところ。最初の委員からあったようなこととも関連があると思うのですが、働きたいと思う人がしっかり働いて、適切な収入を得て、家族をつくっていけるということが重要だと思います。そういった要素はこの目標1、2、3のどこに入っているかという、何となく入っているのですが、あちこちに散らばっているというか。例えば目標1の社会の担い手、支え手として意欲的に社会参加できるということも、雇用と関連しているかもしれないし、3番目の福祉・介護等のサービスを受けというのは、もちろんセーフティーネットとしては大事だけれども、そうではなく頑張って働きたい方、あと、高齢でもずっと社会参加されたい方みたいなのが分かりづらいというか。あまりに書き過ぎると限定的になるという事務局の気持ちもよく分かりつつも、働く人のイメージがちょっと曖昧だと全体的に感じました。

あとは、市民意識という欄がKPIを想定していて、別の委員からも言われたように、どうしても市民の割合というアンケートになると、あまり詳しくないことはなかなか答え

られないこともあるので、これともう一つ実態別の統計資料などを参照しながらやっていたきたいと思います。例えば、目標4の脱炭素やリサイクルなどに取り組んでいるまちづくりが進んでいると思う市民の割合ではなく、実際にそういうことに取り組んでいる市民の割合とか企業の割合のほうが本当はいいのだろうと。もちろんそれが増えるということは実態はなかなか難しいことかと思うのですが、できる限り市民が実感しやすいアンケート項目に対応したものになるのか、ほかの統計資料をリファレンスするのか、御検討いただければと思います。

以上です。

○松浦部会長 貴重な御意見ありがとうございます。確かに理念がかなり、「輝いている」というところから始まって。御指摘ありがとうございます。

そのほかございますでしょうか。

すみません、では座り順をお願いします。

○委員 よろしく申し上げます。目標3について、資料の17ページからですけど、2点ほど気がついたことを申し上げたいと思います。

3-3、「安全で快適な生活基盤の整備と災害に強いまちづくり」というところに、「身近な道路、下水道、河川、公園などの維持・更新…」という記載がありますけど、目標が令和16年までということで、恐らく福岡市も一緒だと思いますけど、全国的に見て昭和40年代の高度成長期にできた沢山の社会資本、具体的に言うと道路の橋やトンネルなどが、目標の令和16年までの向こう10年の間で、次々に人間でいうと還暦を迎えます。まだ現役で使用している構造物がたくさんあると思いますけど、周辺の自治体や、九州内の全県や市町村で、老朽化対策が非常に大きな課題になっています。

すべてを一気に更新することは不可能であり、更新するにしても自治体の予算を圧迫し、どうしてもすぐには対応できないといった自治体がたくさんあります。これからは、早いうちに手を打って、更新というか、老朽化対策として、適切な管理をすることによって今ある構造物を長くもたせることもとても大事になってくると思います。計画的な老朽化対策として適切な維持管理といった観点を含めていただいて、市民生活に影響がないような形で適切な社会資本の維持管理と、メンテナンスを盛り込んでいただければと思っております。それが1点です。

2点目は、先ほどの委員のお話と同じですけど、自然災害が非常に頻発化、激甚化しております。福岡市内だけで完結するのではなくて、周辺の自治体との連携と申しますか、受援も含めた支援、応援体制、それから国の機関も含めた防災関係機関との連携がこれからの災害対応に当たって非常に大事だと思いますので、この17ページに書いてある防災・

危機管理体制の強化の中に、ぜひともそういった他機関との連携という観点もしっかり入れ込んでいただきたいと思います。

以上でございます。

○松浦部会長 ありがとうございます。更新というエイジングしている施設に対する老朽化も含めた視点と、それから防災時の他機関との連携ですかね。御意見ありがとうございます。

では、こちらから。

○委員 よろしくお願いたします。

同じく目標3のところでも今回、自主防災や共助という言葉が盛り込まれて、人の力、コミュニティの力で防災に取り組んでいこうという姿勢が示されていますけれども、過去の大きな災害を見ていると、恐らく救急あるいは消防が行き届かない状況が発生するだろうという中で、コミュニティの力で何とかしていかなければならない場面が多々出てくるだろうと思います。

西方沖地震が起きたときに玄界島のコミュニティ力の強さみたいなものを取り上げたこともありました。そういったところがどこまで大きなまちで実現できるのか分かりませんが、そういった自主的な力に頼るためには多分情報が必要だと思います、判断に至るための材料となる情報が必要だと思いますけれども、それをどうやって届けていくかも非常に重要だと思います。残念ながら能登半島地震の直後は半島の一部で放送の電波すら止まってしまいました。放送施設が被災して放送できない事態もありましたので、そういった中でどう情報を届けていくのかは大きな課題とされます。

気象庁は今、警報などの基準を一生懸命に年々見直しております、自治体もそれに対応する形で避難基準をアップデートされていると思いますけれども、それを市民の方の隅々までどうやって届けていくか、その手段が非常に重要だと思います。今使われているような一斉メールやX、LINEといった手段が10年後も果たして今のままなのかどうかよく分かりません。多分、情報通信技術はどんどんアップデートされて新しいものが出てくるとしますので、ハード面もちろんですけども、ぜひ情報も一つのインフラとして位置づけて、アップデートさせながら充実させていくことを念頭に置いていただいて、それによって地域の方々が自由に正確な情報をたやすく手に入れることができることは非常に重要だと思います。

○松浦部会長 ありがとうございます。委員、能登半島でマスメディアがうまく機能しなかったことに対して新たな取組みというか、そういうものは始まっていますか。

○委員 地上波が23日間止まったという報道がありましたけれども、今、地上波の局は、それだけでは伝え切れないと。当然、放送の電波の中で伝えられることは限られていますので、L字みたいな形で常に情報を流すみたいなこともやっていましたが、そもそもテレビが見られなければそれは伝わらないので、今はネットでの発信に力を入れようとしています。放送局ではありますけれども、情報の出し口をどんどん増やしていくということで、インターネットも、SNSも使いながらということをやっております。しかし、これも同じことで、情報通信技術が変わってくればまたやり方も変わっていくかなと思っております。

○松浦部会長 ありがとうございます。今オンラインのほうで挙手いただいているので、この場の委員の先生方にお話しいただく前に、オンラインの委員、お願いします。

○委員 発言の機会をいただきありがとうございます。私からは3点述べさせていただきます。

一つは目標1に関してです。「めざす姿」に文化芸術やスポーツなどと記されていますが、これまで自然資本という話がありましたし、他の委員からも話があったとおり、自然から享受する心豊かさを目標1に含めてもいいのではないかと思います。

続いて目標2に関してです。施策に関しての提案ですけど、若者の意見をもっと意思決定の場で反映させることを含めてほしいです。例えばヨーロッパでは、デンマークなどは被選挙権が18歳以上と日本よりはるかに若く、EUでも政策の決定に若者の意見を取り入れる部会があるそうです。いつも話題になっている世界全体で取り組まないといけない気候変動の文脈に関して、スコットランドやドイツ、オランダやフランスなどで市民会議という形で若者の意見を取り入れており、日本でも日本版気候若者会議という取組みが始まっていますけれども、気候変動以外の文脈でも若者の意見を政治や社会に含めるべきで、支援や充実、社会全体で取り組むという今の取組み方だけでなく、若者の意見を反映することを明記してもいいのではないかと思います。

最後に目標4に関してです。既にあった話とも重なりますが、めざす姿に生物多様性や環境負荷の少ない持続可能な社会ということが書かれていますが、施策のところには脱炭素社会や循環経済という言葉はあるものの、生物多様性や環境負荷を少なくすることがはっきりと書かれておらず、方向性として感じるものの、施策にはっきりと含めてもいいのではないかと思います。

以上です。

○松浦部会長 ありがとうございます。特に二つ目でいただいた御意見は、いわゆる若者

の参画をどのように具体化していくかということで、私もイギリスかどこかの取組みを少し先日会議で聞いたところですけど、意見聴取やワークショップなどを超えて、若者がいわゆるポリシーメーカーの側になることをどう整備していくかということだと思います。その辺りの先進的な福岡市の取組みを、今後、先ほどの委員をはじめとする若い人たちに担っていただければと思います。貴重な御意見をありがとうございました。

では、委員、お願いします。

○委員 よろしくお願ひいたします。

まず、目標全体のつくり方の中で一つ意見がありまして、先ほどから市民意識のところにも2項目掲げられているということですが、めざす姿が三つなら、それに呼応する意識も三つにしたほうが市民的に分かりやすいのではないかと率直に思います。三つを二つに絞るとより分かりづらくなる気がするので、そこは一度考えていただきたいと思ったのが一つです。

現状と課題の書き方のところも、もちろん社会情勢はありますが、福岡市の現状と、これこれの施策やっていくのに何が課題なのかを書き出していただいて、それを受けてこういう施策に取り組もうという構成のほうが分かりやすいので、「世間はこうなっています」というよりも、福岡市は今こういう状態にある、ただここが課題なので取り組むというふうに、もう一步踏み込んだ書き方をお願いできたらなという全体のつくり方に対する意見です。

もう一つは、目標の1から4を並べて見たときに、先ほどから結構意見が出ている目標2だけ対象が子どもと若者なんです。1、3、4は、全部の市民が、自分だったらこうだな、自分の関わりはこうだなと思うはずですけど、目標の2だけそこに絞られていることにちょっと違和感があります。人生100年とうたっていますし、今、定年も延びていますし、チャレンジするのは子ども・若者だけではないところもありますので、ここを絞るのが果たしていいのかどうか、一度、委員の皆様と議論をしていく必要があるのではないかと思います。

例えば目標2の1番目では、母親の感覚だと思いますけれども、仕事と子育ての両立支援のことが書かれていますが、仕事と生活の両立が求められるのは子育てだけではありません。病気との付き合い方もあるかもしれないし、親御さんの介護もあるかもしれません。そういう意味では、このように絞ってしまうと狭めてしまうことになる気がしますので、そこはもう少し広く、目標は大きく、160万人を超える市民みんなが関わられるような目標にしていきたいです。

それから、翻ってみますと第9次のときには、目標1個に対して6から8個ぐらいずっと施策が書かれていましたけれども、ぎゅっと絞っていただいたのか、施策の数が限ら

れていますので、もう少し切り分けて、分かりやすい施策にしていくことが次に打つ手につながる気がします。その中でも、施策をつくるときに市民自らが直接的に関わる施策と、福岡市がやるもの——道路の整備や橋の強化は福岡市にお任せするものという感覚が市民にはあると思いますので、そこを切り分けてもらうと計画や施策が市民感覚として分かりやすくなると思いますので、そういう視点で全体的に見ていただけたらと感じました。

以上です。

- 松浦部会長 貴重な御意見ありがとうございました。確かに、めざす姿は三つなのに市民意識のところはなぜ二つなんだというのはなかなかインパクトのある御意見で、私は一つでもいいのではないかと、三つか一つかのどちらかではないかなと思いました。事務局なりの整理の仕方があるかと思えます。

それから目標2の子ども・若者については、他の委員からも御発言があったと思いますが、この「・」で分かれてないという御指摘で、先ほどの委員はここだけ特出しされていることに対する御意見でした。国もこども家庭庁が「こどもまんなか」というキーワードを使っていたり、この目標2を読めば全ての世代がキーワードかと思いますが、どういうキャッチーなものを前に出すかは市の戦略の一つになるかと思えますので、その辺りはまた事務局のほうでお考えいただければと思います。ありがとうございます。

では、御発言いただいてない委員の方。お願いします。

- 委員 先ほどの委員からも御指摘がありましたけれども、私は目標1と3について意見を述べさせていただきたいと思えます。

目標1に「一人ひとりが心豊かに暮らし、自分らしく輝いている」とありますけれども、先ほど言われたとおり、今、時代はICTであったりAIであったりという電子機器の環境がすごく進んでいて、それに高齢者は取り残されているという現状があります。どこに行っても、スマホ決済であったり、ICカードで乗車券を買うという環境がどんどん進んで、若い方たちはそれに対応する能力がありますし、そういう電子機器を使っての生活様式が定着しています。ただ、高齢者にはそれがなかなか理解しにくい、利用しにくい。そういう環境がどんどん進んでいて、高齢者はそれについていけず、理解できず、一層孤立が進んでいくのではないかと、そういう感覚がありますので、そこはしっかりと対応を考えていく必要があると思えます。これからさらに高齢者が増えていく状況がありますので、その対策が必要だと思えます。

あわせて、障がいのある方たちは、やはり情報を取得するすべが非常に限られています。そういう環境の中で障がい者が一緒に地域で暮らしていくためには、それなりの情報提供、適切な正しい情報がきちんと届くシステムが必要なのではないかと思っております。いろ

いろいろな障がい向けの福祉関係施策が福岡市にはあります。でも、その支援制度がみんなに行き届いてないというか、周知できてないというか、知らないことが結構あります。それが孤立につながっていく要素の一つになると思いますので、周知方法などをしっかり考えていく必要があると思います。

それと目標3の地域の人とのつながりも非常に重要です。近年の地震などの自然災害でもそうです。そういう事故が増えてきているということで、障がいのある方、また高齢者は非常に不安が大きいです。これを解消するためには地域とのつながりが非常に重要になってくると感じています。

現在、日本では各自治体へ要支援者の個別計画をつくるように政府から指示が出ていますけれども、福岡市における要支援者名簿、支援計画の進捗は、今13%程度です。これには優先順位があって、重度の方、それから独り暮らしの方などを優先して計画の作成に取りかかっていますけれども、この計画策定のスピードを上げていただいて、もっともっと多くの方がこの支援計画で支援を受けられる環境をつくっていただくと非常にありがたいと思います。

そのためには地域とのつながりというのが非常に重要です。障がいのある方のため、各区にフレンドホームというのがあります。障がいのある方たちの活動の場です。これも、地域で生活しているのであれば、公民館や自治体等のいろいろな催しに積極的に参加できるようなシステムをつくっていただきたい。いざというときは隣近所の方が頼りです。そういう方たちとのつながりをつくっていく、そういうシステムを考えていくのが非常に重要になると思います。

誰一人取り残さない社会をつくるという意味では、そういうところをしっかりとサポートなり制度として作り上げていくことが非常に重要になってくると思いますので、その辺もこの視点の中に入れていただいて、取り組んでいただければと思っています。

以上です。

○松浦部会長 ありがとうございます。情報というキーワードで切り口をいただきました。この情報というキーワードは、先ほど他の委員がおっしゃったように現時点でも非常に重要なキーワードになっていて、よろしければ事務局のほうでも、情報というキーワードがどのようにこの計画で位置づけられているかを少し見ていただければと思います。

また、地域のつながりについても御意見いただきました。施策の周知を含めて、こちらも一つの情報といえば情報ですけれども、私も阪神・淡路段震災時に京都で被災しましたが、やはり地域のつながりが希薄なところと濃いところでは、その後の生活が全然違うことを身をもって感じました。

地域のつながりというキーワードからしますと、委員、いかがでしょうか。別にそれに

特化しなくても構いませんので、御意見を賜れればと思います。

○委員 私どもの団体が、恐らく地域と人のつながりというところに一番問題がござい
ます。地域によって非常に地域が活発であるところと停滞しているところと、いろいろござ
います。なぜかといいますと、自治会組織の中におきましては安全・安心を目的とした地
域づくりを今敢行しているわけですが、それがかなわないところは自治会が機能してない
ということが挙げられます。何で機能してないかという、自治会に参加していただける
方が減少しているという、これが端的な問題でございします。なぜかという、福岡の高島
市長は安全で安心だから皆さんが福岡市に集まってこられると常におっしゃいますけれど
も、その安全・安心をつくっている私ども自治会としては、ただそれだけのことで来てい
ただけるのかと思っております。

もし自治会が機能しない場合は、恐らくそのまちは荒れるでしょう。私は40年前に経験
しておりますけれども、非常に学校が荒れました。そのときに一生懸命頑張ったのは地域
の人間でございします。収まったのはなぜかといいますと、子ども会をしっかり立て直し、
そして子どもたちとの会話を増やしていった、そういう経緯がございします。今の自治会も
そうでございします。

減少減少で私たちは本当に困っております。なぜかといいますと、新しく福岡市に入っ
てこられる方はいろいろなお考えをお持ちでございします。これまで地域に携わってこられ
た方はすぐに溶け込んでいただけますが、地域と一切関わりを持たないという方がとにか
く増えております。そういう私たちは自分たちだけでやるという方に対しては説得力がご
ざいしません。何をもちて説得していいのかということがいつも問題視されますけれども、
私自身、なぜ福岡市に来られたんですか、なぜこの地域に来られたんですかと。恐らく、
安全で安心で交通の便がいい、学校の便がいいということで来られたはずで。過ごしや
すいからと。それは、いつも携わっている私たちが汗水垂らして頑張ってきて現在がある
わけですが、いろいろなお考えをお持ちの若い方たちにはなかなか浸透しないの
が現状でございします。ここにいろいろ支援を行いますと書いてありますけれども、どのよ
うな支援を行っていただけるのか、事細かに後で発出していただければ私どもは助かりま
す。

恐らく、ここに参集の皆様方は、これも昨年申し上げましたが、お住まいのところの自
治会にすべての方が加入していらっしゃる私は確信しております。今後とも、私どもが
一生懸命、自治のことや地域のことをやっていることを常に考えていただきまして、いろ
いろ皆様方が発出している源というのは地域があって初めてなされる問題だと思ってい
ますので、どうぞよろしく願いいたします。

○松浦部会長 ありがとうございます。今、自治会の入会率の低下というのは、どこの自治体、あるいは地域でも大きな課題ですし、ネットニュースなどにもぎわせることが多いのですが、喫緊の課題の一つかと思いますので、よろしく願います。ありがとうございます。

では、委員、願います。

○委員 失礼いたします。教員養成系の単科大学に籍を置いております関係で、教育のところに非常に興味を持って拝見させていただいています。目標2、3について少し意見を述べさせていただきたいと思います。

3につきましては、先ほど委員もお話になりましたけれども、「多様な主体が」というところに様々な多様な方々を盛り込んで述べて、施策の中でこういう方向でやっていったらいいのではないかと書いてくださっていますが、中には、マイノリティーといいますか様々な方々がいらっしゃるわけで、例を挙げますと、災害のときに特別な教育的ニーズのある子どもにとって、その支援はどうあるべきかといったことについては、やはり大事な視点の一つではあろうかと思えます。誰も取り残さないといったようなことを先ほども表現しておられましたけれども、こうした施策の中にも盛り込んでいただくとよいのかなと一つ思います。

目標2についてですけれども、拝見をしまして、施策の三つ目、見出しと中の説明のところ、
「自ら学び続け、他者を尊重し、協働できる子どもの育成」について、具体的にそれはどういうことなのかということです。「変化を前向きに受け止め、自ら学び続け」と、文科省が発出されている文章にもしっかりとこういった表現がありますが、「他者を尊重し、協働できる子どもの育成に取り組む」という、この「育成に取り組む」のところに含まれている内容は非常に深く大きいので、そこのところはもう少し書き込んでいただいたほうが内容として伝わりやすいのではないかと、そして重要ではないかと思えます。

先ほど早い時期に御発言がありました、モグラたたきのような問題対応だけではなくて、予防的なアプローチも要るのではないかとといったところは、例えば予防教育ですとか開発的な子どもの心理教育ですとか、そうしたことも含めることができるかと思えます。

もう一点は、子どもたちにそうしたことが教えられる先生方の、例えば研修をする時間であったり御自分の専門性を磨いていく時間であったり、そうしたこともしっかりと保障しないことには、これまで私たちが学んできた学び、教えてもらったアプローチと今の子どもたちに向けて先生方が発信していかなければいけないことは、随分内容的にも変わってきていると思います。そうした過渡期に来ている先生方に、教えてもらったやり方とは違うやり方で子どもたちと関わっていかなければいけないということを学ぶ時間的なゆとりをある程度保障しないことには、大きな転換にはなりにくいのではないかと日々実感し

ているところです。

報道でも先日、定額働かせ放題といった表現もあったり、先生方の大変さというのもありますので、その支えになるようなものもこの中に盛り込んでいただくと、よりよいのではないかと思います。以上です。

以上です。

○松浦部会長 ありがとうございます。目標1、2に関して、主に教育の専門性のところから、働き方改革も含めて御意見いただきました。ありがとうございます。

では、委員お願いします。

○委員 ありがとうございます。

今の委員とも少し重複する点があるかと思いますが、目標2の「すべての子ども・若者が夢を描きながら健やかに成長している」というところで、今の若者全員が全員そういった夢を持って、将来こうなるんだとか、そういったものを描きながら日々過ごしているかといったら、なかなかそうはなっていない。当然、子どもたちの家庭環境に大きく左右されるところもあろうかと思うんですが、それと同じぐらい教育現場、教育環境が非常に影響しているのではないかと考えております。

当然、この福岡市総合計画においては、この先また基本構想、基本計画、実施計画ということで具体的な施策を盛り込むためのものになっていこうかと思っているんですが、教育においては、国が示す教育基本計画、基本法に基づいた福岡市教育振興計画というものに今度なってこようかと思えます。福岡市がこれからどんな都市を目指すか、どんな未来を創造するかを含めた中での教育振興計画があるべきと思っております。だとするならば、目標2の部分に今後の基本構想、基本計画、実施計画につながるようなキーワード、トリガーになるようなものが何かあれば、スムーズに福岡市の教育に関わるような施策が打ちやすくなるのではないかとちょっと感じておる次第でございます。事務局でも一考いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○松浦部会長 ありがとうございます。目標2について御意見いただきました。福岡市の教育振興計画等が引き出しやすいものがここにもう少しあるとトータルとしていいのではないかと御意見だったと認識しました。これは教育の御意見でしたけど、先ほどの環境とかいろいろな基本的な計画がそれぞれあるかと思いますが、その大本ですね、意図がきちんと出ているとすごく体系的にも施策的にもいいのではないかとということだと認識しました。ありがとうございます。

では、委員お願いします。

○委員 皆様、こんにちは。

目標1の12ページ、(1)のめざす姿。

先ほど他の委員からお話ありましたが、私も地域活動に従事して今年18年目になりますが、本当に福岡市は発展とともにいろいろな課題を含んでおります。男女共同参画は、福岡市は、家庭、学校、地域、職場の四つのテーマで活動しております。私は中央区になるんですが、中央区14校区・地区でも、やはり様々な問題点や課題点が多々あります。平成24年に中央区の男女共同参画リーフレットを作成した機会がありました。そのときにこういう会議を踏まえ一番大変だったのは、中央区14校区・地区の中でも少子高齢化が進んでいる校区・地区、子どもたちが増えている校区・地区、本当に二つに分かれております。平成24年、ちょうど12年前になりますが、10年後を見据えてリーフレットを作ろうという形でしたけれども、地域の担い手が今後少なくなるということは一致しましたが、少子化と少子化ではないところがあるので、リーフレットでどういう形で皆さんにお伝えしようかという問題がありました。

やはり地域で活動している者としては、コロナ期間中は本当に活動したくてもできなくて、今、コロナ前よりも地域活動、担い手は少なくなっているんですが、私も定例会を通して、企業と違って地域のボランティアは地域愛を一番に持っていて、地域愛のある方たちから発信していただくと、本当に気持ちがある人間が集まってくるので、これからの福岡市を考えるとときに地域愛というのは、ひとつこの目指す姿と。

あと、施策のところですが、ぜひこの1-1に、福岡市はヤングケアラーの支援を推進しておりますが、私、他県のケアラズカフェでボランティア講師をしまして、ケアラズという問題で、老老介護の方たちも福岡市の地域活動を踏まえて、私も身近で見ているので、ヤングケアラー、ケアラー全般もぜひ盛り込んでいただけたらと思っております。

あと、目標4の施策の件です。私、前回少しお話ししましたように、ドローンを飛ばした経緯があって、よく離島にも呼んでいただけているのですが、福岡市は能古島をはじめ、先ほど他の委員からもありましたが、大島へ行ったり、今、島の人口は減っているんですが、とてもストレス社会なので、身近な方たちも何かあったら能古島に癒しに行っているということで、Well-beingの観点からも島との交流というか、福岡市との在り方も今後いろんな意見が出たらすてきだなと思いました。

以上です。

○松浦部会長 貴重な御意見ありがとうございました。地域活動のリーフレットを作る際

に、全ての地区に共通するイメージが難しかったという話、本当にちょっとびっくりしました。確かにそうなんだろうなと改めて認識しました。

また、ドローンのお話では、素材に恵まれた地域、自治体であることは間違いないところで、そういうものをどのように生かしていくかを都市圏の各自治体も含めて、夢があるところを展開していただければと思いますし、その基となるような計画の運びがあると少しまた違ったものになるかと思いました。ありがとうございます。

では、一巡という形で、皆様方に何らかのコメント、本当に貴重なコメントをいただきました。ありがとうございます。50分も過ぎましたので、目標5から8について、こちらは都市の成長部会でやっておりますが、何か特段の御意見等ございますでしょうか。

どうぞ、委員。

○委員 私のほうから、今後の福岡市の成長というところで、海外からの人材だったり企業誘致という言葉がたくさん書かれています。ビジネスの機会、国際会議、MICEもそうですね。

私の中で、諸外国、特に欧米豪を中心に、LGBTのことも含めダイバーシティが大変進んでいると認識しています。たくさん法律もできておりますので、その観点からいいましても、諸外国の常識的な部分においても、やはりこのダイバーシティを重んじている方たちはたくさんいると思います。特にグローバル人材という形の位置づけもありますが、ビジネスの機会において、今現在、諸外国のサプライチェーン法も含めてそうですが、差別が存在している、偏見が温存されているところでのビジネスを毛嫌いする企業も出てきているのを私も認識しています。

そういうことを考えたときに、福岡の成長は海外の経済も含めて取り込んでいくことを考えるのであれば、グローバル基準まで引き上げるときに、LGBTのことも含めたダイバーシティのところまで引き上げて考えていかなければ多分達成できないのではないかと感じたので、そこだけちょっと付け加えさせていただきました。ありがとうございます。

○松浦部会長 ありがとうございます。グローバルな展開を考える中で、差別といいますか、多様性の受入れというか、ちょっと表現は私もあれですけど、多様性に対応しているところが企業から選ばれる、選ばれないというところの結構重要なファクターになっているというお話だったと思います。機会がございましたら、都市の成長部会のほうにもお伝えいただければと思いますし、またそこで議論がもし既にされているようでしたら、先ほどの委員等に御情報いただければと思います。ありがとうございました。

シナリオ上、これでもうタイムアウトになりましたので、唯一発言いただけてない副部会長の張先生に、最後、まとめをお願いします。

○張副部長 松浦部長、ありがとうございます。もう時間になりますので、短く2点述べさせていただきます。

まず一つは、自分の専門から目標1ですが、13ページの施策の1-1の2行目で、バリアフリーのまちづくりがあります。もちろんバリアフリーは大事ですけども、せっかく2034年を目指しているということで、マイナスからゼロより、さらにプラスまでということで、例えばこの表現が多様性包括のまちづくりとか、あるいはインクルーシブのまちづくりとか、そのような言葉になったらいいのではないかと思います。

2点目ですけども、それこそ委員の皆様の発言からちょっと感じているのが、八つの目標があるんだけど、1、2、3は特に結構オーバーラップしているところがあると感じています。もちろんそれぞれ単独に大事ですけども、それぞれの相乗効果をどう図っていくかということも結構大事だと思います。

他の委員もさっき話していたことで、例えば質の向上という中で、在住者だけじゃなく来訪者の質も含めたら、結局これが目標8のアジアのモデル都市になるということで、そのような総合的なオーバーラップの部分を施策の中でどう反映するかということも明確な文言があったらいいのではないかと考えています。

個人的に四つのキーワードがあるのではないかと考えています。まず、大きい夢、それから、小さいステップの具体的な施策、さらに、時代によって課題が出てくるので時代のニーズ、最後はやっぱり福岡ならではの、この四つの視点が大事じゃないかなと思います。ありがとうございます。

○松浦部長 張先生、ありがとうございました。四つのキーワードでまとめていただいてありがとうございます。

あと、バリアフリーとかこういう片仮名語は賞味期限があったりもするので、10年後も耐え得るような表現に、ポジティブに変えることができれば、それがいいのではないかと思います。まとめありがとうございます。

ということで、すいません、皆様……。

○委員 スケジュールについて。

○松浦部長 じゃあ、一旦締めさせていただきますよろしいですか。

では、本件の議題にあります第10次の分野別目標について様々な御審議いただきました。皆様の御協力に本当に感謝いたします。

その他ということで、では、委員、スケジュール。

○委員 冒頭にスケジュールについて提案が 있었습니다。月に1回の開催で、今からあと3回しますよという流れで、途中で原案ができるという状況になっていると思います。今日も皆さんの発言聞いていて、もっといろいろな角度から皆さんの専門家としての意見を拝聴したいと強く思ったのと、私自身も今日は目標の1についてしか意見発表できていませんので、部会の開催を増やすか、または開催はこのままにして、意見発表の機会を例えば文書で出すとか、そういうことも含めて皆さんの意見を。4回で終わるよということじゃなしに、何かそういう膨らみを持ったものをつくったほうがいいのではなかろうかと思ったので、御意見を述べさせていただきました。

○松浦部会長 貴重な御意見ありがとうございました。タイトなスケジュールの中、かつ20人を超える先生方の日程調整も事務局は大変苦勞しているところだと思いますが、委員の今の御意見も確かにというところがございますので、一旦そこは部会長のほうで預らせていただいて、事務局と調整させていただいて、皆様方の貴重な御意見を賜うことができ、そして実のあるものができるようにしたいと思います。どうもありがとうございました。

では、皆さんありがとうございました。事務局にマイクをお返しします。

4 開会

○事務局（高橋） 松浦部会長、張副部会長、ありがとうございました。

以上をもちまして福岡市総合計画審議会、生活の質部会を閉会いたします。

次回開催日時を御連絡いたします。次回、生活の質部会は6月27日木曜日、10時からを予定しています。

本日の資料につきましては、机の上にそのまま置いておいていただければ、事務局でファイルにとじ込み、次回の部会で御用意いたします。資料を持ち帰られる場合や資料の郵送を希望される方は近くの職員にお声かけください。

それでは、忘れ物のないようお気をつけてお帰りください。本日は誠にありがとうございました。

閉 会